

令和3年度学校評価・関係者評価 報告書（提案書）

加西市立加西中学校

学校教育目標

「自ら学び続ける、心豊かな生徒の育成」
～道徳を核にした 豊かな学びの創造～

本年度の重点

1. 組織運営
2. 「基礎学力」「基礎体力」の定着・
「基礎モラル力」「非認知能力」の育成
3. 安全・安心な学校づくり
4. 教職員の資質向上
5. 家庭・地域社会と連携した教育の推進

総合的な自己評価

昨年度に引き続き、「基礎学力」「基礎体力」「基礎モラル力」を軸として、非認知能力の育成、道徳授業の充実に取り組んできた。加西市教育委員会指定の研究発表会を一つの契機として、職員一同が結束して充実した教育活動に従事できた。

評価としては、やや厳しい自己評価となっているが、若い教職員が多く、成果として目に見える部分が少ないために控えめなものとなったと考えている。ただし、全ての分野において、それぞれの取組は着実であり、その手応えは記述評価等にも垣間見ることが出来る。次年度は、さらに充実させ、生徒の成長や変容が目に見える形で顕れるよう努力を続けていきたい。

学校評価の方法についての学校関係者評価

生徒数の減少に伴う教職員の減少と、若手教員の増加による影響を考慮した新しい学校評価のあり方が求められている。また、教職員の日頃の献身的な努力が、もっと学校評価としてプラスに評価されても良いと感じる。

個人の自己評価と学校全体の学校評価を分けた二段階の評価方法は、その結果についてもよく吟味されており、今後も継続していくべきである。さらに、PDCAサイクルを意識して、今年度の評価を次年度に確実に活かす努力をしてもらいたい。

総合的な学校関係者評価

昨年度までの取組を引き継ぎ、定期的な校内研修やOJTによって、若手育成の視点を重視していることは自己評価から読み取れる。同時に、若手を中心とした全教職員の資質向上に取り組んでいることも評価できる。これらの取組が、今の加西中学校の生徒たちが、健やかにのびのびと学校生活を送れていることにも多大に影響していると感じている。

ICT活用や新型コロナウイルス感染症に対する対応等、今まで以上に厳しい時代に学校現場の職員が一致団結して子ども達のために努力されている姿は、本当に素晴らしいと感謝している。先生方の努力の成果が実り、子ども達が豊かにたくましく生きる力を蓄えられるよう学校関係者として支援していきたい。

| 分野 | 評価項目・取組内容 | 評価 | 学校の取組状況・課題・改善の方策 | 評価項目ごとの学校関係者評価 | |
|------------------|---|----|---|---|--|
| | | | | 自己評価結果および改善方策の評価 | |
| 学 習 指 導 | 基礎的・基本的な知識・技能の習得に努めている。 | B+ | <ul style="list-style-type: none"> ・特に、英語では少人数指導に加え、同室複数の指導により丁寧な指導が行えている。 ・小テストや振り返りシートの活用などが、多くの教科で定着しつつある。 ・各教科での取組の工夫などを情報交換できる校内研修等があれば良いと思う。 ・NIEや読書など、落ち着いて考える機会や環境が整ってきている。 ・様々な授業の中で、思考力・判断力・表現力の育成を意図した学習活動がなされていると感じる。 ・その教科、その学習内容にあった学習形態を工夫している教科が多くなってきた。 ・生徒が物事を柔軟に考えられるように、教師の適切な支援が行われている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な授業作りを心掛け、分かりやすい授業、生徒の理解を促す工夫が良くなされている。 ・教師の数が少なく、互いに切磋琢磨できる機会として校内研修が位置づけられているが、その充実が課題となっているようだ。 ・NIEは面白い取組なので、さらに子ども達の探究的学習につながっていくことを期待する。 ・表現力の乏しい子どもが増えているように感じるが、授業の中でそのような力も付けてもらいたい。 | |
| | 思考力・判断力・表現力の育成に努めている。 | | | | |
| | 学習規律（時間・忘れ物・宿題・自主的発表）を確立し、学習に向かう姿勢や気持ちをつくらせている。 | | | | |
| | 学習効果を上げるため、個別やグループ別指導等、効果的な指導形態の工夫・改善を行っている。 | | | | |

| | | | | |
|---------------------------------|--|----|--|--|
| 学 習 指 導 | 毎時の授業のねらいを明確にするとともに、板書、発問、ワークシート等に工夫・改善を行っている。 | B+ | <ul style="list-style-type: none"> ・若い教師が積極的にICTを利用した授業を行っていることが、教職員全体の刺激となっている。 ・毎時間のめあてを明示することが習慣化してきた。ただし、振り返りの時間確保がまだ十分に出来ていないことが課題である。 ・ねらいに沿った発問の工夫が出来るようにするため、全教科で研修などができると良いと感じる。 ・クロームブックを効果的に使うことで、生徒が興味のあるものを調べ、伝えたいという強い思いで発表が出来るようになってきた。 ・相互授業参観の期間が設定されているが、授業時数の多い教師がほとんどのため、なかなか落ち着いて他の教師の授業を参観して学び合う機会が十分に取りにくい。 ・学活や総合などでも、学級担任と副担任が上手く連携をとって効果的な取組を目指したい。 ・他の教科の教師と積極的に意見交換をして、自らの授業を振り返る時間が道徳以外ではあまり取れていないのが残念である。 ・教科横断的な内容に関しては、他教科の教師に学習進度や生徒の理解度を尋ね、それを基にして自らの授業計画を立てている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達のより探究的な学習活動につながるような、授業改善のためのツールとして、ICTを利活用することを期待する。 ・高い学力を誇る地域では、授業のめあてと振り返りの徹底がなされていると聞いた。加西中学校でも、標準的なスタイルとして、今後も定着させて欲しい。 ・相互授業参観は確かに良い取組だと思うが、それが出来にくい現状も理解できる。ダイナミックな工夫や発想の転換が必要なのだと思う。 ・教科横断的とは難しそうだが、加西市ではSTEAM教育を推進していると聞いている。加西中でも面白い取組が出来るのではないかと、地域としても協力したい。 |
| | 生徒の個性や到達状況などを把握し、個に応じた指導により「わかる」「できる」を生徒が実感できる授業づくりに努めている。 | | | |
| | 各教科の特性を踏まえ、探究的な課題を設定し、生徒が主体的に取り組む授業を展開している。 | | | |
| | 他教科の教師とも情報交換を行い、自らの授業を振り返り、授業改善を図っている。 | | | |
| 道 徳 ・ 人 権 教 育 | 自他の生命を尊重し、人間的ふれあいを深め、思いやりのもてる豊かな心の育成に努めている。 | B+ | <ul style="list-style-type: none"> ・市の研究発表会に向けての取組において、確かな成果が顕れてきているので、今後も継続して取り組んでいくべきである。 ・学年会等よく話し合い、中心発問を軸として捉えながら授業を行うことが定着しつつある。 ・研究推進の柱として取り組んできた中で、資料準備を充実させ、生徒との対話を大切にしている教師の姿勢が定着し、雰囲気が高まっている。 ・支援の必要な生徒への周りの理解を促すため、必要な声かけや仕掛け作りを学年団で相談し取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市の研究指定を受けたとはいえ、これを契機に道徳教育が一層充実した様子がよく分かる。 ・道徳教育は、道徳の授業だけで充実するものではないと思うので、日頃の生徒への関わりの中から、生徒の道徳心を養ってもらいたい。 ・人権課題の克服に対する取組はなされているか。 ・学年を一つのユニットとして、組織的に取り組んでいる様子はよく理解できる。 |
| | 年間指導計画に基づき教材・資料を充実させるとともに、対話による授業力を向上させ、道徳的心情と道徳的判断力の育成に努めている。 | | | |
| | 自他の違いを理解し、違いを認め支え合い、共によりよい生き方に向かう姿勢を醸成している。 | | | |
| | 年間指導計画に基づいた指導を行い、身近な問題に気づき、考えることで、人権感覚を養っている。 | | | |
| 特 別 支 援 | 支援が必要な生徒の実態把握と教育的ニーズの理解をし、個に応じた適切な支援・指導を行っている。 | B+ | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画をもとにして、それぞれの先生が丁寧に指導できている。 ・個の特性に応じた指導を、関係する教師が連携を取りながら支援指導できている。 ・教師間で協力して連携はとれているが、目に見えた成果が上がっていくにはもう少し工夫が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の特性に応じた大切な指導なので、課題の見逃しの無い確実な取組を期待している。現状では、良好なものではないかと推し量ることができる。 ・特別支援学級の担任ばかりに負担がかからないよう、学校全体としての支援体制が整っている。 |

| | | | | |
|---------------|---|----|---|---|
| 特別活動・総合学習・その他 | 好ましい人間関係とモラルのある集団生活が営まれる学級・学年づくりがすすめられている。 | B+ | <ul style="list-style-type: none"> ・学活や総合の時間を利用して、自分の考えたことや班や学年で話し合う機会をたくさん持っている。 ・体育大会や音楽祭など、さらに生徒主体が実現できるよう、打ち合わせや綿密な計画を立てる必要がある。 ・行事を活用しながら、生徒の基礎モラルや非認知能力の育成に努めている。 ・委員会を充実させ、自分たちで考え実行できる力を育てているが、まだまだ十分とはいえない。 ・3ヶ月計画を立案しているが、総合的な学習の時間は曖昧なところが多く、もっと明確な方針と計画が必要であると感じている。 ・部活動の指導理念を共有し、顧問が専門性向上のために学ぶことが部活動の充実感に直結すると思う。 ・競技の専門性の無い教師が主顧問をしている部が多いため、部活動の意義を明確に共有できる環境作りになりたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であっても、体育大会や合唱祭が無事に行われたことは、関係者として大変有り難かった。 ・主体的な態度の育成に努力してもらいたい。加西中の生徒は、真面目でおとなしいが、表現力が乏しくたくましさやはつらつきに欠ける印象がある。 ・3ヶ月先を見越した計画立案は、企業では当たり前であるが、より学校現場や生徒の発達段階に即した充実した計画を期待する。 ・部活動は様々な制限の中、不自由な活動が強いられことはやむを得ないが、工夫や発想を変えて、部活動本来の目的を意識し直そうとする動きは良い。その反面、これまで子どもをたくましく育てる場として貢献してきた部活動の意義も再認識してもらいたい。 |
| | 生徒の主体的・協働的活動を支援し、生徒主体の学校づくりを通して、創造的な力の育成に努めている。 | | | |
| | 事前・事後指導を充実させ、意図的で計画的な特別活動や総合学習により、基礎モラル力と非認知能力の効果的な育成が進められている。 | | | |
| | 部活動の意義を理解し、達成感や満足感の体験を通して非認知能力の育成に努めている。 | | | |
| 生徒指導 | 基本的生活習慣の確立、規範意識の育成、基礎モラル力の向上に努めている。 | B+ | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって良い学びになるように、教師が支えながら見守ることが出来ている。 ・生徒指導事案に限らず、事実確認の正確さと迅速さが求められている。 ・問題行動に対しては、組織的に対応できている。 ・学年団を中心に、毎週行っている学年会議や生徒指導小委員会を通して、問題行動への組織的な対応が定着してきたと感じる。 ・普段から学年や関係職員とよく話し、生徒の様子を把握している。 ・教育相談や電話連絡などを通して、適切に保護者と関係が築けている。 ・学年会議でしっかり情報共有し、担任を中心に家庭やSCやSSWと連携した支援が行われている。 ・生徒指導小委員会が出た内容を、他学年であっても情報共有し共通理解を図ることが必要。 | <ul style="list-style-type: none"> ・組織的対応、情報共有、共通理解が徹底され、子ども達が安心して学べる学校づくりにこれからも努めてもらいたい。 ・SCやSSWとの連携が進んでいるのは良い傾向だと思う。子ども達のためだけで無く、先生方の負担軽減にも大いに役立つと思うので、一層充実してもらいたい。また、部活動指導などにも同じような力が活かされたら良いと思う。 ・若い先生方が増えたことで、保護者との連携がスムーズに行えているのか。特に問題があるとは聞いていないが、ベテラン教師やミドルリーダーにあたる教師から、指導技術の継承を行ってもらいたい。 |
| | 生徒の実態をふまえ、厳しさと温かさのある生徒指導を実践し、自ら考え、判断し、行動する態度の育成に努めている。 | | | |
| | 円滑な報告・連絡・相談により職員の共通理解を図り、問題行動等への誠実で迅速な組織的対応が行われている。 | | | |
| | 生徒理解に努め、生徒や保護者が安心して相談できるようにしている。 | | | |
| | 不登校生に対し、家庭や関係機関(SC・SSW・総合教育センター等)と連携を図り、職員間の共通理解がある組織的な支援が行われている。 | | | |
| キャリア教育 | 学年に応じた進路指導計画に基づき、社会人としての自立に向け、自己を見つめ、夢や目標をもって将来の生き方を考えるキャリア教育を推進している。 | B+ | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者の意見をしっかりと聞くことの必要性を、学年会などで確認できている。 ・早い段階から将来を見据えて、親子で話ができるような形に発展できるよう、学校での教育相談のあり方を工夫していく必要を感じる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に偏重すること無く、幅広い視野のキャリア教育を期待する。 ・トライやるウィークがこれまで通りに行えていないが、生徒たちはどう感じているのか、キャリア教育の1つの軸であったように思う。 |
| | 保護者と連携し、自らの意思と責任で生き方や進路選択ができるよう、教育相談の充実を努めている。 | | | |

| | | | | |
|-------------|---|----|--|--|
| 安全・防災教育 | 生徒の健康や安全に留意し、活動環境や活動状況を把握する等、安全対策に努めている。また、事故等の緊急時の体制を整備し、役割分担を明確にしている。 | B+ | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検が、やや形骸化していないか、改めて見直す必要がある。 ・避難訓練は定期的に行われており、定着している。今後は、生徒の主体性を引き出すような避難訓練に工夫していけたらよいと感じている。 ・近年は、水害や台風被害等への対応が必要となりそうなので、生徒にも火事や地震以外の災害にも目を向けさせる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大きな事故等は聞いていないが、登下校での自転車の様子、校舎の老朽化はやや心配である。 ・安全点検や避難訓練等、形骸化させないで着実に実行することが学校の義務であり、その役目を先生方はしっかり果たしてもらいたい。 |
| | 火災、地震、社会を脅かすような事態等に対する意識を高め、迅速かつ適切な対応ができるように、防災意識や危機管理能力の向上に努めている。 | | | |
| 地域・家庭・社会と連携 | 学年・学級通信・配布物やHP・オープンスクール等により、学校の情報や教育活動の様子を家庭・地域に伝え、保護者及び地域の学校への関心を高め、理解と協力を得るよう努めている。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・HPに学校の様子が随時掲載され、開かれた学校になってきている。 ・学年通信、学級通信や学校HPなど、適切な頻度で発信出来ていると思う。 ・各学級担任が、日々の忙しい中で学級通信を発行している雰囲気はとても良いと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校HPはもちろん、学級通信や学年通信をいつも楽しみにしている。 ・家庭や地域の声を拾ってもらえたら、なお有り難いと感じている。 |
| 教職員の資質向上 | 学校運営参画意識と貢献意欲をもち、分掌された校務を的確かつ効率的に行っている。 | B+ | <ul style="list-style-type: none"> ・研修に取り組みたいという願いがあっても、なかなか時間に余裕がないのが現実である。 ・コロナ禍の影響や時間的な余裕が持てない現実から、校外の研修に積極的に参加することが難しい。 ・学級担任や担当者任せになりがちな雰囲気を感じるときがある。 ・働き方改革、業務改善と言われる中、教師が行わなければならない業務は減るどころか増えているのが現実であり、推進することはかなり難しい。 ・業務の偏りがどうしても発生しやすいので、負担感の平準化を図るためにも、校務分掌決定の際には一層慎重に行うべきである。 ・今後も、定期的なコンプライアンスの意識調査は必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で校外での研修等の機会が減ったと聞くが、リモート研修も増えているはずなので、工夫して研修に励んでもらいたい。 ・働き方改革、業務改善等が声高に叫ばれて久しいが、学校現場では進んでいるか。夜遅くまで職員室の電気がついているのを見ると気の毒で有り、不安である。 ・コンプライアンスの意識は大切だが、特に、若い先生方の意識はどうであるか。真面目な先生方ばかりだと聞いたが、社会全体の課題として、若手の意識を掌握することが組織として大切になってきている。 |
| | 自ら校内外の研修に積極的に取り組み、教職員としての資質、実践的指導力の向上に努めている。 | | | |
| | 高い理想、目標をもって挑戦し続け、教職員プロとしての誇りのある指導を実践している。 | | | |
| | 働き方改革の意識をもち、計画的で効率の良い業務改善を図り、他の職員を気にかける協働的な職場づくりを推進している。 | | | |
| | コンプライアンス意識の向上を図り、様々な危機管理意識をもった職務の遂行に努めている。 | | | |